

『交流』の場 ～ 対話のあり方を学ぶ ～

2024年7月14日、筆者が代表を務める『がん哲学外来市民学会』の第12回『がん哲学外来市民学会 京都大会：出会いの中で実を結ぶ ～ がん教育とともに ～』（大会長：武藤倫弘 京都府立医科大学教授）（京都学・歴彩館に於いて）（画像）に赴いた。会場は多数の参加であった。大会長の武藤倫弘先生の『先見性・力量・胆力』とスタッフの皆様の『懸命な心温まるおもてなし・賢明な寛容性』には、ただただ感服した。基調講演1をされた内富庸介先生とは、久しぶりの再会であった。筆者は教育講演『がん哲学外来におけるがん教育』の機会が与えれた（画像）。

【『青年とは 大きな希望抱負を有する者を称するので、年齢の多少を問わない。ゆえに希望なき者は、いかに若年であっても、片足を棺桶に踏み込んでいるのと同じようなもので、希望さえあれば、三十になっても。六十になっても、すなわち 青年というべきである』（新渡戸稲造;1862-1933）&『涙とともに パンを食べた者でなければ 人生の味は分らない』（ゲーテ (Goethe:1749-1832)）&『喜んで無邪気に小さなことに大きな愛を込める』ヨハンナ・シュピリ (Johanna Spyri ; 1827 - 1901) の『アルプスの少女ハイジ』】をさりげなく語った。

アトラクションでの京都府立医科大学の学生の弦楽四重奏、一燈園小学校の生徒の和太鼓演奏には、心が癒された。午後の特別講演の皆様の真摯な発表には大いに感激した。前日（7月13日）は、『第13回 がん哲学外来コーディネーター 養成講座 in 京都：大人も 子どもも がんカフェを知る ～カフェの未来像 ～』であった（稲盛記念会館に於いて）。

『がん哲学外来市民学会』は【医師、医療従事者、一般市民、学生、中高生、あらゆる人々が立場を超えて集う『交流』の場。市民の立場に立つ『医療維新』を目指す。『がんという病気のこと』、『生と死について』、『医療の在り方』言葉の大切さ、対話のあり方を学ぶ『次世代のがん相談者』の育成】である。

終了後、参加者の方と祇園祭を見学した（画像）。大変充実した貴重な『京都の旅』であった。

第12回

がん哲学外来市民学会

京都大会 テーマ：出会いの中で実を結ぶ～がん教育とともに～

大会長 京都府立医科大学 分子標的予防医学 教授 武藤 倫弘

2024年 7 月 14日 日 10:00～15:30

場所

京都学・歴史館

対象

がんとともに生きる人、家族、
がん哲学を学びたい人・興味のある人

参加費

無料

定員

200名

事前登録は
コチラから



がん哲学外来市民学会のホームページ
「大会申込」からお申し込みできます

PROGRAM

9:15 受付開始

10:00 開会の言葉 榎久均先生（京都府立医科大学 学長）

10:05 基調講演Ⅰ 「がんを抱えたときの心構え」

内富廣介先生（国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院）

10:40 基調講演Ⅱ 「がん患者さんの痛みとその対策」

天谷文昌先生（京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室 教授）

11:15 教育講演 「がん哲学外来におけるがん教育」

樋野興夫先生（一般社団法人がん哲学外来市民学会 代表、新達戸船通記念 センター長、
順天堂大学 名誉教授、恵泉女学園 理事長）

11:45 お昼休憩

13:00 アトラクション 吹奏楽演奏（予定）／京都府立医科大学

和太鼓／学校法人 燈影学園 一燈園小学校の皆様

14:00 特別講演Ⅰ 「その人のライフに焦点をあてたケアに向けて」

吉岡さおり先生（京都府立医科大学 医学部看護学科 教授）

特別講演Ⅱ 「地域の中で暮らしを支える～ホスピス住宅の取り組み」

杉田智子先生（ファミリー・ホスピス京都北山ハウス ホーム長）

特別講演Ⅲ 「つばなの会活動報告～そこにあるということ～」

西田久美子先生（学校法人 燈影学園 一燈園小学校／小学校教頭）

特別講演Ⅳ 「働く世代でがんになったら」

前田留里先生（NPO法人 京都ワーキング・サバイバー 理事長）

15:10 次期大会長ご挨拶 林良彦先生（フリーランス緩和ケア医師 がん哲学外来大分ふくカフェ 店長）

15:20 大会長閉会の言葉 武藤倫弘先生（京都府立医科大学 分子標的予防医学 教授）

「がん哲学外来」

患者の個性を引き出す。
個性を引き出された患者は
自分の役割・使命を知る。

樋野興夫



